

第6次所沢市総合計画特別委員会会議記録（概要）

平成30年11月21日（水）

開 会 （午前10時0分）

【議 事】

○議案第80号「第6次所沢市総合計画基本構想及び前期基本計画の策定
について」

【自由討議で確認された事項に関する質疑】

大石委員長

71ページ、基本方針3-1-1：トコロん健幸マイレージ事業の参加者の1日平均歩数について、以前に開催された健康福祉常任委員会で所沢市が行っているトコロん健幸マイレージから埼玉県が行っているコバトン健康マイレージに移行することについて健康推進部から説明がありましたので、平成36年までの事業目標としている表はおかしいのではないかとということで、訂正を提案させていただきました。コバトン健康マイレージに移行していくことについて、健康づくり支援課から説明していただきたい。

野上健康づくり支援課長

現在行っている健幸マイレージ事業ですが、地方創生推進交付金及び埼玉県健康長寿埼玉モデル普及促進事業補助金が主な財源です。平成32年度以降はこういった補助金が終了するため財政的に今後の事業継続が困

難になること、参加者や参加期間に制限が発生していること、歩数の計測がスマートフォンに対応していないこと、歩数の読み取り場所が市内に限定されているという課題がございまして、この課題を解決するために平成32年度からの新たな事業の方向性について先進市の視察や事業者からの意見徴取を実施するなどして検討を重ねた結果、費用面、参加者の利便性、スケールメリットなどから埼玉県が実施して、現在44市町村が加入していますコバトン健康マイレージに本市も参入していくことが望ましい選択だと考えて準備を進めていきたいと考えています。コバトン健康マイレージの数値については、その中に市の独自のものも加えることができると伺っておりますので、単純にコバトン健康マイレージに参加することだけでなく、その中で所沢市の特徴を出すということも併せて考えております。

大石委員

所沢市は健幸としていて、埼玉県は健康としているか。

野上健康づくり支援課長

埼玉県は一般的な健康となっています。

桑島委員

コバトン健康マイレージの計測器具はどうなるのか。データ記録用の端末はどうするのか。

野上健康づくり支援課長	歩数の計測についてはコバトン健康マイレージ事業の場合は歩数計とスマートフォンのアプリの2つが選べるようになります。現在のところん健幸マイレージは歩数計のみで、読み取りリーダーが市役所と保健センター、コンビニですと市内のファミリーマート20店舗のみでしたが、コバトン健康マイレージの場合は全国のローソンでの読み取りが可能となるので、例えば旅行先や出張先で読み取ることが可能となります。
桑島委員	リーダーも結構お金をかけて開発した。どうやって活用していくのか。
青木健康推進部長	現段階では移行について方向性を決めたところでして、そういったことも含めて今後検討してまいります。
桑島委員	コバトン健康マイレージの端末はまた新たに購入したり、もらったりするのか、スマートフォンではない場合は。
野上健康づくり支援課長	コンビニエンスストアのほかに8台が県から貸与されます。これは無償となります。
桑島委員	リーダーではなくて端末についてはいかがか。
野上健康づくり支援課長	歩数計は購入することになります。

り支援課長

城下委員

財政的には県の費用のみでこの事業を賄うのか。

須田保健セン

ター長

県の健康マイレージ事業は県全体の事業費の内半分が県から財源が補助され、残り半分を各市町村で案分して負担することになっております。本市の負担額は平成32年度は1,000万円ほどの事業費になると今のところ試算しておりますが、事業費の半分を一般会計、半分を国保特別会計で計上できるようにと考えております。

赤川委員

議案が提案された段階では移行することも想定された中で、こういう名称を使ったのだと思う。市の財源やアイデアも入っていると思うが、県の財源を使った場合、名称はどうなるのか。

須田保健セン

ター長

コバトン健康マイレージに移行した場合、スマートフォンアプリですとコバトン健康マイレージと初期画面に表示されます。そうしたことからコバトン健康マイレージ事業という認識に一般的にはなるのかと思っておりますが、一方でトコロん健幸マイレージ事業を来年度も含めると4年間実施してきたということで、市民への周知がされてきたことから、その名前を残したいという思いでございました。市民視点も含めて考えて、コバトン健康マイレージという名称でいくのがよいのかどうかは今後検討した

いと思います。

休 憩（午前10時10分）

（説明員交代）

再 開（午前10時12分）

大石委員長

30ページ 基本方針：1－1－2の自治会等未加入世帯への加入促進活動を加入世帯数とする方向性について、自治会・町内会の加入率の推移を見ると、自治会・町内会加入世帯数は平成29年度は97,697世帯で加入世帯は200世帯ぐらいがベースで増加していることが多く、200世帯ぐらいのペースで増加していくべきではないかということで、現状が97,697世帯で平成31年度は平成30年度と平成31年度で403世帯を足して、98,100世帯。それ以降200世帯ずつ増加する数値目標を確認したので提案する。このことについて何か確認はあるか。

川上市民部長

私たちがお示した事業目標は計画の組み立て、ルールの中で事業に取り組んでいる状況を示すものとされており、適正なものとして考えております。委員会からご提案をいただきました加入世帯数につきましては、自治会・町内会の便利帳にも記載しており、その数字をもとにこのようなご提案をいただいたのかなと思います。200世帯という数字がどこまで適正なものかというのは私には判断しかねます。どれだけふえたかという結

果にかかわりなく、加入促進の取り組みは当然進めるべきだと思いますし、進めていきたいと考え、事業目標を設定させていただいたものです。

休 憩 (午前10時15分)

(説明員交代)

再 開 (午前10時16分)

桑島委員

31ページ【課題】の「生活困窮者」の次に、「やひきこもり」を追加すること及び32ページ基本方針：1-2-3の文中「自立相談等の支援や、」の次に「ひきこもり対策、」を追加する方向性について、ここに書いてなくてもやっているのなら総合計画は意味はないので、ここに書いてもらわないと困るので言っている。ひきこもり対策について、このように修正する方向だが、何か現場等での課題はあるか。

荻野生活福祉

担当参事

生活困窮者の自立支援制度自体がさまざまな制度のはざまに孤立している生活困窮者を既存の制度やサービスにコーディネートしながら支援していくということで新たなセーフティネットとして施行されたものでございますので、ここではその対象として地域で孤立している生活困窮者と表現したものです。この中には高齢者や障害者などのさまざまな原因で生活に困窮する恐れのある方を含めて、困窮している方が含まれるもので、ひきこもりの方もその中の一つということで対応しているところでござ

ざいます。そのため生活困窮者の中の一つの現象であるので、ひきこもりを併記して表記することは違和感のあるものと考えております。32ページ基本方針：1-2-3の文中「自立相談等の支援や、」の次に「ひきこもり対策、」を追加する方向性について、生活困窮者の自立支援法に基づく取り組みは生活困窮者に対して包括的な相談を行って、さまざまな制度を活用しながらコーディネートして、専門の関係機関と連携しながら支援を行うということですので、この対象の中には高齢者や障害者、ごみ屋敷、育児や介護放棄などのさまざまな問題をお持ちの方が含まれますので、ひきこもり対策を特別に取り出して併記することについては考えていないところでございます。

桑島委員

生活困窮者対策、所沢市の実績ベースでひきこもりの方を対象として、何らかの対応をされたケースはどれぐらいあるか。

荻野生活福祉

生活困窮者の支援自体はひきこもりも含めてということになりますが、ひきこもりに特化した、それがメインの問題の相談件数は平成28年度は7件、平成29年度は12件、平成30年度は今のところ13件でして、生活困窮者の新規の相談件数は563件ですので割合は2.3%です。

担当参事

桑島委員

行政からしたら生活困窮者に入っているという行政のロジックはわかるが、総合計画は市民のためのもので市民からすれば、そんなことを言わ

れたって知らない、生活困窮者と言えればお金に困っている人だ。だからひきこもりが入っているとと言われても、普通の住人の感覚からすればひきこもりの支援はないと思うのではないかとというのが我々市民の代表としての、選挙を通った選良たる我々の感覚だ。総合計画が行政の総合計画ならば構わないけれども、我々は市民が読んだときにどう思うかという視点から考えると、ちゃんとやっているということを示す意味で入れた方がよいのではないかと。市民が見て生活困窮者にひきこもりが入っているとわかるか、生活困窮していない人もたくさんいるのだから。

植村福祉部長

そのような見方もあるかと思いますが、一方でごみ屋敷はどうかとかいろいろと出てくる問題もあるのかなと思います。そうした問題の中で一番問題なのはふえ続ける高齢者の見守り体制などが今現在では多いかなと思います。基本計画なので、さまざま細かいところまで書くのは限度があるのかなと思います。今後実施計画等でも、そうした細かいことを書くこともあるかと思いますが、ここに課題のほうでは地域で孤立している生活困窮者としました。これは捉え方があると思いますが、経済的に困窮している方ばかりを含めているわけではございません。また、32ページの「自立相談等」の等の中に先ほど生活福祉担当参事が説明したいろいろな方が含まれているということで、わかりづらいかもしれませんが福祉部としてはそのように考えております。

城下委員

先ほどの件数はあくまで相談に来られた方の件数だ。市内でどれぐらいの方がいらっしゃるかというのは把握したことはあるか。

植村福祉部長

そうしたことはしたことがございません。全国的なもので15歳から39歳の調査で、平成22年2月では69万6,000人、27年12月に54万1,000人で少し減っているものがございました。市としては把握していないということで、課題として「地域で孤立している生活困窮者を早期発見し」というところに、その思いを入れているところでございます。

荒川委員

子どもの貧困について、53ページ「家庭や地域の教育力の低下」の次に「、子どもの貧困の深刻化」とすると、ここは課題なので、ここが一番よいのではないかと。1節から3節までにかかわる問題でもあるので最初に持ってきた方がよいのではないかとということで提案する。

並木こども政

原文の中で列挙されていることは課題の項目なので、子どもの貧困という言葉は社会的には問題視されていることになるので特に違和感はありません。

本田こども未
来部長

子どもの貧困については以前からこども未来部の考え方については答弁してしまして、こども未来部としましては全ての子どもたちという部分で貧困にかかわらず、さまざまな課題を持った子どもたちに対応していく

と考えているので、原文のままとしたいのがこども未来部としての考えです。

谷口委員

若年層の自殺について、前回の委員会で「青少年健全育成」に盛り込んだ方がよいのではないかとということで、62ページ、2-4-2「相談機関につなげ、さらに若い世代特有の傾向に即した、自殺防止対策を行います。」とすることとしたい。東京都足立区はネット環境から自殺のキーワードが出てきた人に相談窓口を紹介する事業を今年度から新しく始めている。それなりの成果が出つつあるので、そうしたことを意図して、先進自治体の情報を含めながら、若い世代の自殺防止対策をしっかりとやるべきではないか。

森田 青少年課
長

若者に関する相談の中には自殺に関する相談、悩みというものがもちろんあるかと思いますが。このほかにひきこもりやニート、不登校、ネット依存、薬物依存などのさまざまな相談があることが想定されますので、基本方針の中ではさまざまな悩みという中に提案いただいた自殺に関する相談、悩みも含まれていると考えておりました、このように表記しているものでございます。

市川 経営企画
課長

青少年に特化した自殺防止対策ということでしたが、参考までに73ページの健康の分野のところでも3-2-4「精神疾患対策と自殺防止対策」

で全体的な自殺防止対策についてはここに位置づけをしています。

谷口委員

委員会としては73ページよりも62ページに入れた方がよいのではないかという議論だったので、あえて62ページに入れたのだが、その点についてはいかがか。

市川経営企画
課長

これまでもこころの健康支援室が特に自殺防止対策については所管を持ってきたというところがございます、若者に対しても思春期こころの健康相談なども所管していることから、この項目に自殺防止対策を位置づけてきたという経緯があることは踏まえていただければと思います。

桑島委員

実際所沢における若年層の自殺は全国的に見て多いのか。少ないのか。人の命がなくなるというのをもう少し真剣に考えた方がよい。言葉遊びをしているのではなくて深刻な反省に基づいて、どうなっているのか。

市川経営企画
課長

経営企画課としては若年層の自殺のデータについては把握しておりません。

森田青少年課
長

青少年課におきましても数につきましては把握しておりません。埼玉県
のデータですと平成28年の自殺者が1,194人のうち若年層といわれ
る30歳代以下の方たちにつきましては、30歳代全体の12.3%、2

0歳代の方は11.5%でございます。40歳代以降は現状としては高くなっている状況でございます。

平田経営企画
部長

学校の現場についても教育委員会で、この対策ということで大変深刻に受け止めていることは確かでございます。さらに平成31年度に向けて何らかの形で、日常の中から自殺をしてしまいそうな可能性のある児童・生徒について、より早期に発見できるように体制などを整えたいということに取り組んでいることを聞いております。当初予算なども含めまして人員の確保、心理的などところを専門に扱う方の体制を充実させていきたいという話は聞いておりますので、そういったことで具体的に対応していきたいと考えております。

大石委員長

前回の委員会で教育総務部長に空調設備の件について、今日までに報告をお願いしましたが、まだできないようで我々の審査も進まないの、なるべく早く報告していただいて審査を終結させたいと考えているが今後に影響はあるか。

平田経営企画
部長

空調設備につきましては今年の夏のことを含めまして国のほうでも、かなり大きな問題として捉えておりまして、できるだけ早期に小中学校へ空調設備を整備していくということで取り組まれておりますので、こうした動向も踏まえて、これまでは所沢市独自の空調設備の整備の調査をしてお

りましたが、現在の状況としましては教育委員会では中間報告と合わせて今後小中学校への空調設備整備について、どのような形で進めていくかというのを総合的に判断していくということで時間をいただいています。できるだけ早い時期にということはこちらからも働きかけをしておりますし、29日に予備日があるということも伺っておりますので、場合によってはそこまでに何らかの形でお示しできるように調整を図ってまいります。

休 憩（午前10時40分）

（説明員退室）

再 開（午前11時12分）

谷口委員

前回に引き続き、議案第80号の論点を整理するため、自由討議を行いたい。

大石委員長

自由討議を行うことでよろしいか。

（委員了承）

【自由討議】

谷口委員

前回の議論の中で若い世代の自殺防止対策というのは、しっかりと位置

づけるべきだと提案させていただいた。具体的には当初は73ページに入れるか、62ページに入れるかという議論があつて皆さんの方向性としては62ページにつなげればよいという議論があつたので提案させていただきました。

大石委員長

62ページ、2-4-2「相談機関につなげ、さらに若い世代特有の傾向に即した、自殺防止対策を行います。」とする方向性でよろしいか。

(委員了承)

石原委員

4ページ 「泥んこになって」、5ページ 「早く大人になりたいな」の前にそれぞれ「例えば、」と加筆することについて、会派でもこれらは例示的なものなので、例示的なものとわかるように書くのは理解を得ている。例えば早く大人になりたいな、例えば泥んこになって遊べるようとか、そういう表現であれば私どもは大丈夫かなと思う。

桑島委員

4ページは「子どもたちは「絆」を感じながらたくましく、例えば泥んこになって遊ぶまち。」、5ページは「子どもたちが例えば「早く大人になりたいな」と思える、そんな大人がいるまち」とするならよい。

大石委員長

4ページは「子どもたちは「絆」を感じながらたくましく、例えば泥んこになって遊ぶまち。」、5ページは「子どもたちが例えば「早く大人に

なりたいな」と思える、そんな大人がいるまち」と修正する方向でよろしいか。

(委員了承)

石原委員

12ページ、「私たちは」を「多くの人々が」に修正する方向性について、自然に対しての人類という意味で「私たちは」だと解釈していますが、よりわかりやすい表現ということで「多くの人たちが」という書き方でもよいと思う。

大石委員長

12ページ、「私たちは改めて、」を「多くの人々は改めて、」に、「私たちは自然の中で暮らし、」を「多くの人々は自然の中で暮らし、」に修正する方向でよろしいか。

(委員了承)

荒川委員

115ページ 「自然環境との共生」を「自然との調和」に修正する方向性について、委員会全体で共通するものとしては私もこれは賛成だ。我が会派は他にもたくさんあるので、一致するものに関しては私も賛成する。

大石委員長

115ページ 「自然環境の共生」を「自然との調和」に修正する方向でよろしいか。

(委員了承)

谷口委員から提案のあった特殊詐欺については、修正案に入れない方向性でよろしいか。

(委員了承)

桑島委員

4、5ページ 「善き」を「よき」と修正する方向性について、我が会派でもこれはだめだ、この「善」という字は。これは容認できない感じだ。

石原委員

特段何か概念を押し付けるような意味ではなくて、みんなでよいものをつくろうというメッセージ性のものだと受け止めているので、この「善き」というのは大きな方向で残していきたいという会派の意見だ。

赤川委員

今聞いた感じだと、これはこだわっていないということだから「善」という言葉を使う、こだわる意味が理解できない。それならひらがなでもよいし、「良」でもよいという感じを受けたが「善」をつかう会派の意見を聞きたい。

石原委員

大した意味がないとは言っていない。「善き」というのは、みんながよいものと思えるような、善行の善でもある。少数意見になってもよいと思っている。

桑島委員

ひらがなでよいと思う。ひらがなのほうが広い意味があってよい。「善」も含まれるし、「良」も含まれる。もっとさらにおおきなよきになると捉えてもらいたい。

石原委員

その考え方はわかる、委員会での議論を踏まえて持ち帰っているのです。しかし、やはりここは「善き」を推したいという意見になった。

桑島委員

もし委員会で一致とならなければ、「善き」がなくなる可能性もあるから、会派自由民主党・無所属の会は29日までもう一度考えていただきたい。ひらがなの「よき」だと「善」も入るし、「良」も入る。

荒川委員

30ページ、【事業目標】1-1-2を自治会等への加入世帯数にすることについて、年度別目標は毎年度200世帯ずつの増加でよいか。

桑島委員

100世帯でよいのではないか。

大石委員長

30ページ、【事業目標】1-1-2を自治会等への加入世帯数にすることについて、年度別目標は毎年度100世帯ずつの増加でよいか。

(委員了承)

【自由討議終了】

散 会 (午前11時28分)

